



ASTAP-34 会合報告

総務省 国際戦略局 通信規格課

やまくち だいすけ
山口 大輔



1. はじめに

2022年4月18日(月)~22日(金)の日程で第34回ASTAP会合(ASTAP-34)がオンライン(Zoom)で開催された。

ASTAP-34には、APT加盟国38か国のうち、19か国から236名が参加した。

日本からは、富士通、日本ITU協会、KDDI、NEC、NICT、NTT、OKI、TTC、慶應義塾大学、キリンテクノシステム、総務省等より計35名の参加があった。

2. 第34回ASTAP会合について

ASTAPは、アジア・太平洋地域におけるICT分野の標準化に関する地域協力を確立し、グローバル標準化活動に貢献すること、ICT分野の研究、分析を通じてAPT(Asia-Pacific Telecommunity)メンバー間における知識と経験を共有すること等を目的としている。

2.1 ASTAPの組織体制

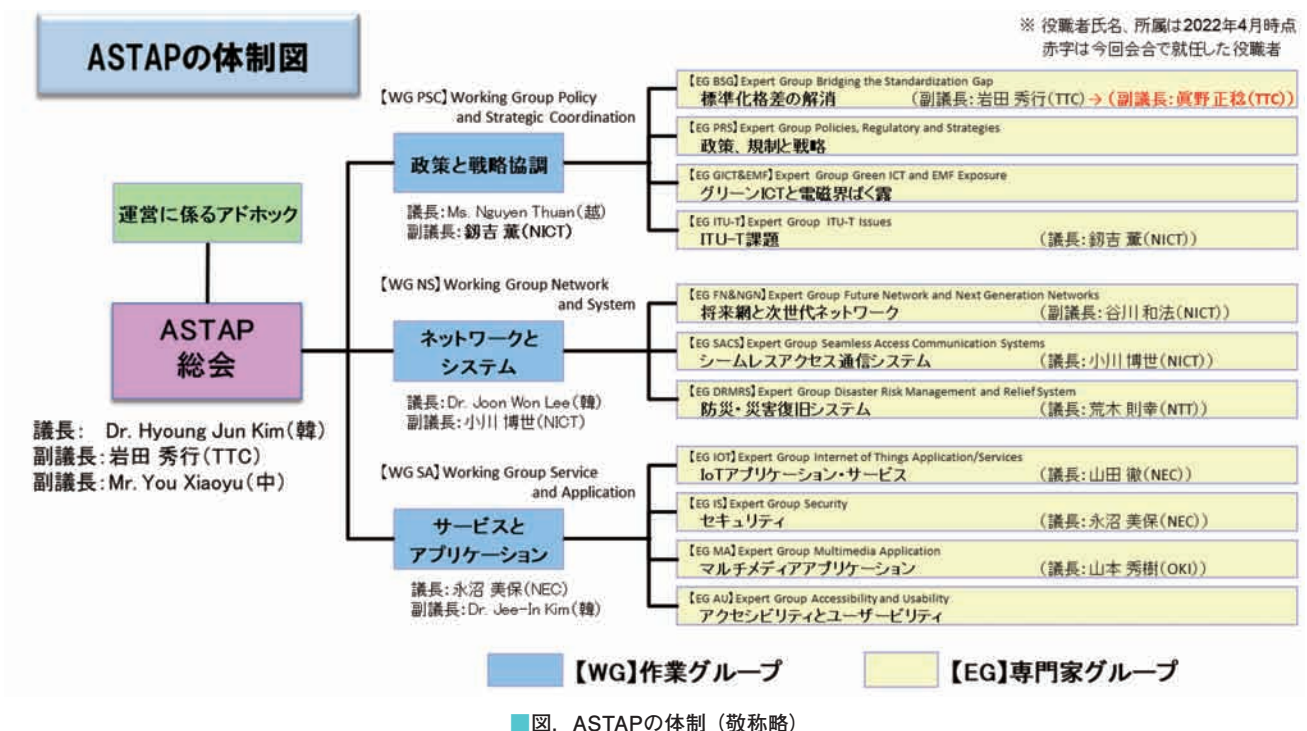
前回ASTAP-33会合(2021年6月)においてWG PSC

(Policy and Strategic Coordination: 政策と戦略協調)の副議長として、釘吉薫氏(NICT)が就任したほか、EG DRMRS(Disaster Risk Management and Relief System: 防災・災害復旧システム)において議長代理を務めていた荒木則幸氏(NTT)が正式に議長に就任した。

組織体制については、EG BSG(Bridging the Standardization Gap: 標準化格差の解消)において、副議長に就任していた岩田秀行氏(TTC)に代わり、眞野正稔氏(TTC)が新たに副議長となった。ASTAPの体制と我が国からの役職者を図に示す。

2.2 インダストリーワークショップ及び標準化ワークショップ

ASTAP-33(2021年6月)において開催されたASTAPの強化のためのアドホックグループの議論の結果に基づき、インダストリーワークショップに加えて、標準化のキャパシティビルディングへの支援を目的とした標準化ワークショップが開催された。ASTAP副議長の岩田秀行氏(TTC)が共同議長を務めた。



今回のインダストリーワークショップは2つのセッションで構成された。

第1セッションは「ブロックチェーン技術と標準化」について講演が行われた。韓国より、「ISO TC 307（ブロックチェーンと分散台帳）の活動状況」及び「NFTとブロックチェーンの技術的・著作権的課題」について紹介があった。また、中国から「Web3.0を支えるDLT拡張未来ネットワークの国際標準化に関する経験と考察」の紹介があった。

第2セッションは「ブロックチェーン産業とアプリケーション」について講演が行われた。日本からは慶應義塾大学より鈴木茂哉特任教授が「ブロックチェーンを活用したB2Cコミュニケーション監査」について紹介した。このほか、スリランカから「産業アプリケーションによるブロックチェーンの利点最大化」について、韓国から「ブロックチェーンによる貿易円滑化のためのデジタルフェデレーション」について、中国から「自国のブロックチェーン産業の概要とXinghuoブロックチェーン基盤」について、それぞれ講演が行われた。

標準化ワークショップは「国内ICT標準化体制構築のためのガイドライン」をテーマに日本、韓国、マレーシア、タイ、中国及びインドの6か国の標準化団体から講演が行われた。

日本からはTTCより活動の状況や国内外の標準化機関との連携などについて講演を行った。

次回ASTAP-35ではインダストリーワークショップを単独で開催する予定であり、標準化ワークショップはEG BSG主催で新興国を招聘したミニワークショップを開催の予定である。

2.3 日本企業・研究機関からの寄書に関する検討

日本企業・研究機関からの寄書に関する主な検討結果は、以下のとおり。

・新規作業項目の開始

[提案者：OKI]「Beyond 5G時代の将来のサービスに対する問題点や要求事項の調査」の新規作成を提案し、作業開始が承認された。各国のBeyond 5Gにおける将来のネットワークサービスについてアンケートにより調査するもの。

[提案者：OKI]「COVID-19におけるアジア太平洋地域のCDNサービスの問題点と要求事項の調査」の新規作成を提案し、作業開始が承認された。世界的にCOVID-19によ

るステイホームのため、家庭内時間が増え、コンテンツサービスの需要が大幅に増大したため、その影響と課題を調査するもの。

・報告書等の完成

[提案者：マレーシア通信マルチメディア省（マレーシア）、日立国際電気、NICT] 技術レポート案「空港滑走路異物検知システムのAPT技術レポート」について、完成に向けて内容の修正を提案、報告書案はプレナリで承認され技術レポートは完成。

2.4 ToRの改訂

EG FN&NGN (Future Network and Next Generation Networks: 将来網と次世代ネットワーク) のToR (付託事項) において、IMT-2020に関連するいくつかの修正が提案され合意された。また、EG IOT (Internet of Things Application/Services: IoTアプリケーションサービス) のToRは今会合で合意された新作業計画に関連する文言 (IoT Ecosystem Development) を反映する形で修正・合意された。

2.5 作業方法の見直し

APT事務局より、ASTAPにおける作業方法の改訂案が提示され、発行する文書と作業方法においてジェンダーニュートラルな言語を採用することに合意した。具体的には「Chairman」/「Chairmen」、「Vice-Chairman」/「Vice-Chairmen」といった用語を、ジェンダーニュートラルな「Chair (s)」/「Vice-Chair (s)」に置き換える文書の改訂と、議長または副議長を一般的に指す場合は「he」「she」といった代名詞ではなく「they」という性別に関係ない代名詞を使用することが提案された。会議中の呼び掛けに使用する代名詞についてまで徹底することは困難ではという意見もあったが、事務局からできる限り中立的な用語を用いるよう期待に応じて欲しいと回答があった。

3. 今後のスケジュール

今回の第34回ASTAP会合は、2023年の第2四半期（4～6月）に物理開催を目指すこととされた。開催地としてバンコクが候補にあるほか、招へい国・地域を継続して募集しているとされた。